

第3章 生涯学習

3-1 生涯学習への取り組み状況

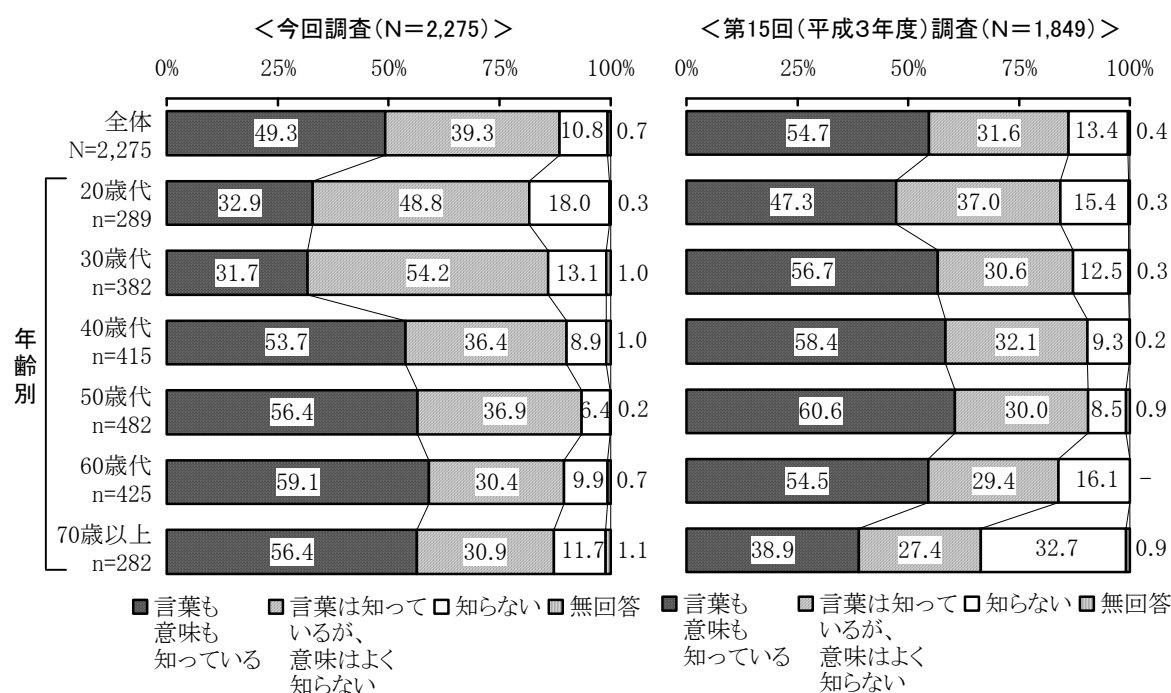
◆生涯学習の認知度は約5割。「健康・スポーツ」や「趣味的なもの」に取り組む人が多い。

(1) 「生涯学習」の認知度

point

- 「生涯学習」という言葉の意味まで知っている割合は約5割。
- 40歳代以上では「言葉も意味も知っている」が半数以上。
- 平成3年度調査に比べ、「言葉も意味も知っている」は5.4ポイント減少。

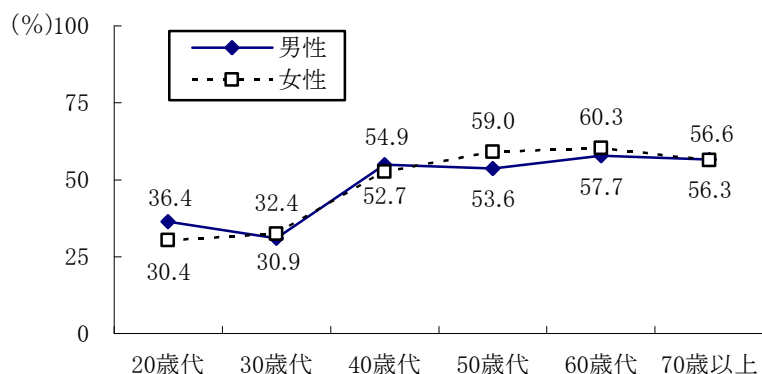
問8 あなたは、「生涯学習」という言葉を知っていますか。



属性別特徴

- ・年齢別で見ると、40歳代以上では「言葉も意味も知っている」割合が5割を超えている。20・30歳代では「言葉は知っているが、意味はよく知らない」が最も多く、それぞれ48.8%、54.2%と5割程度となっている。
- ・ブロック別で見ると、「言葉も意味も知っている」割合は中央部で54.5%と高く、西部A(城島)で37.1%と低くなっている。

■ 図3-1 性×年齢別にみた「生涯学習」の認知度(言葉も意味も知っている)



「生涯学習」とは……

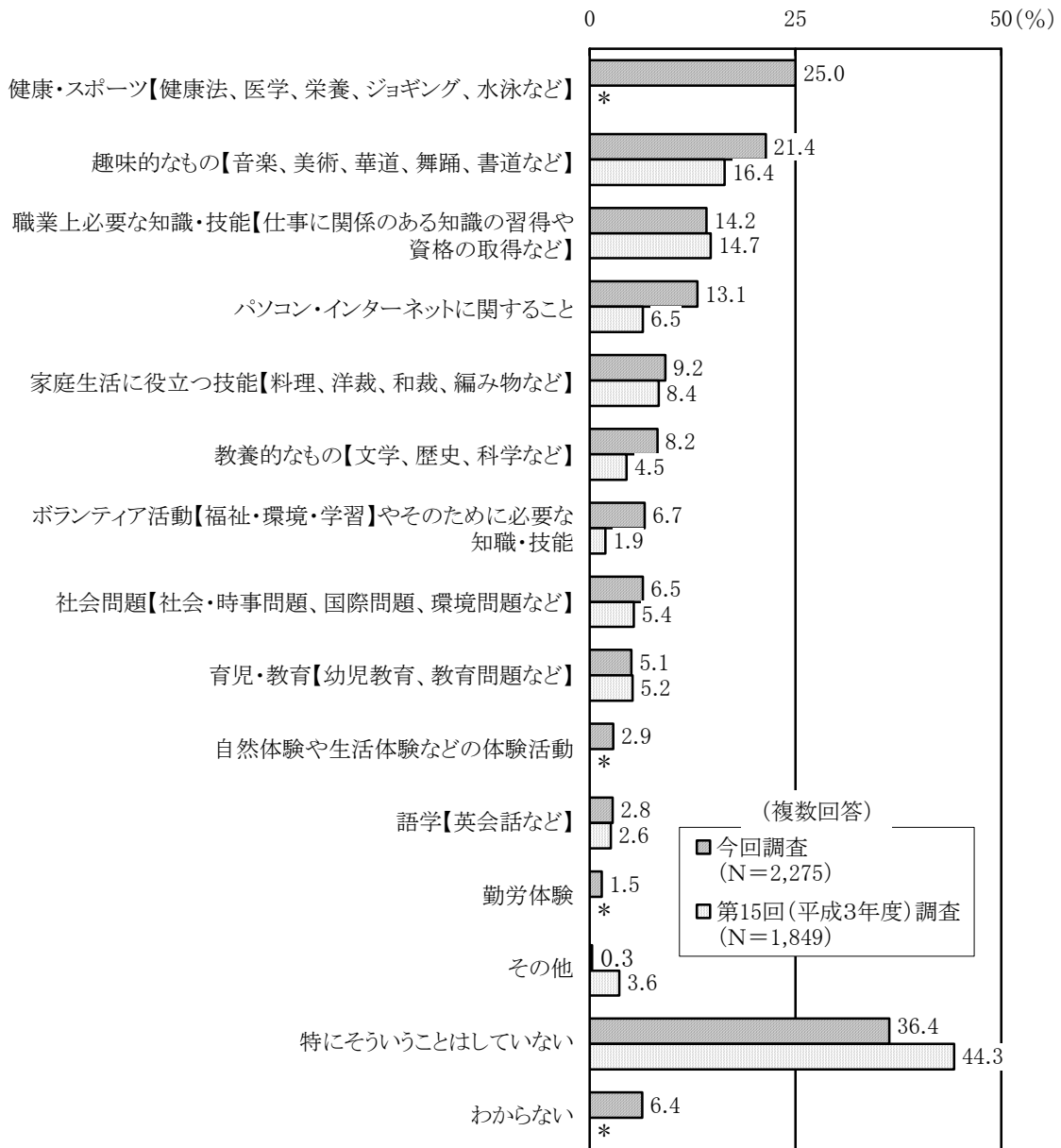
人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育やコミュニティセンター・公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味などのさまざまな学習活動のことをいいます。

(2) 行ったことのある生涯学習

point

- この1年間で行ったことのある生涯学習は「健康・スポーツ」「趣味的なもの」が上位。
- 一方、「特にそういうことはしていない」が最も多く36.4%。
- 平成3年度調査と比較すると、全体的な傾向に大きな差はみられない。

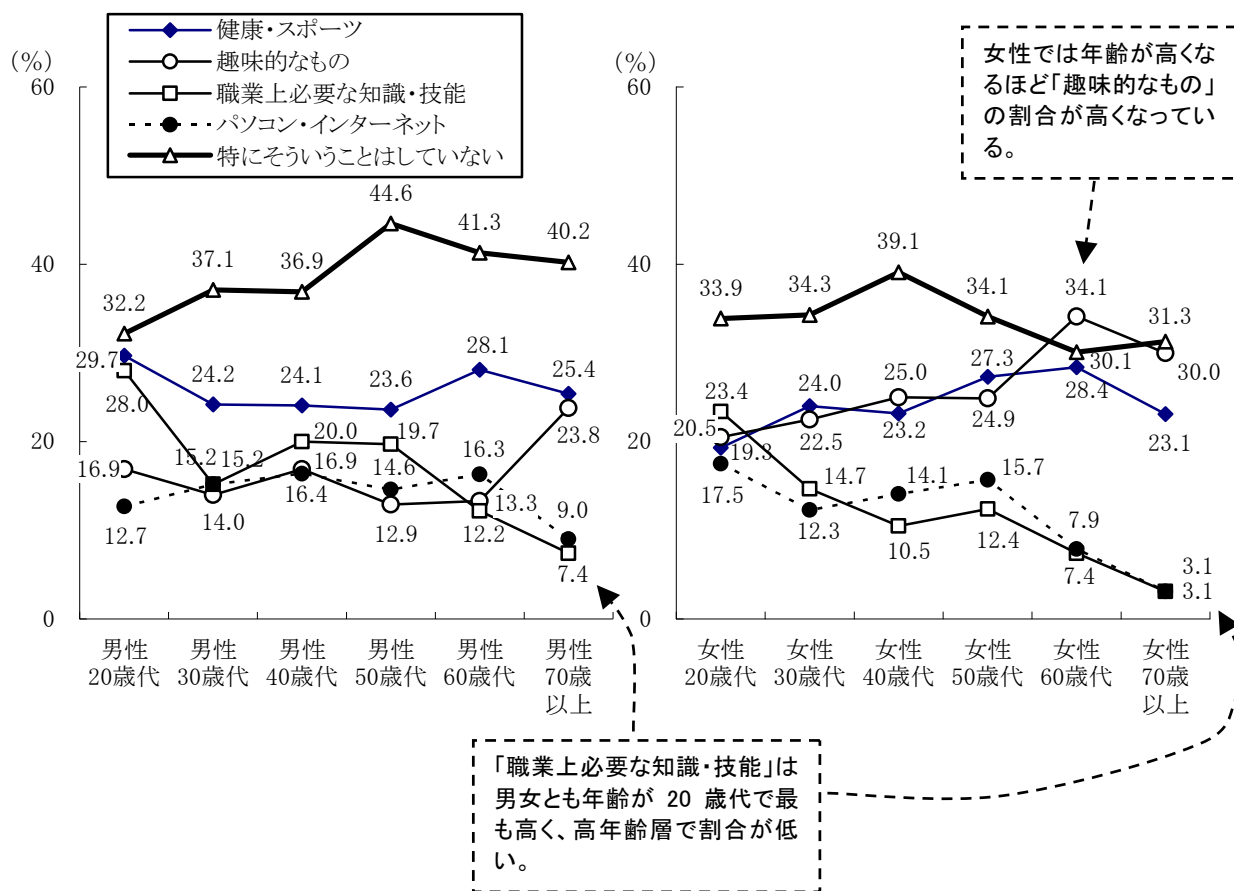
問9 あなたは、この1年くらいの間に、このような「生涯学習」をしたことがありますか。あるとすれば、どのようなものですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別
特徴

- ・性別でみると、「趣味的なもの」や「家庭生活に役立つ技能」の経験は女性の方が多く、「職業上必要な知識・技能」「パソコン・インターネットに関すること」の経験は男性の方が多い。
- ・年齢別でみると、「健康・スポーツ」は全ての年代で割合が高いが、「職業上必要な知識・技能」は50歳代以下で割合が高くなっている。
- ・ブロック別でみると、「健康・スポーツ」は中央部(28.3%)で、「趣味的なもの」は東部A(26.2%)で高い。また、「特にそういうことはしていない」は北部B(北野)(42.2%)や西部A(城島)(41.4%)でやや高くなっている。

■図3-2 性×年齢別にみた行ったことのある生涯学習



(3) 生涯学習の目的

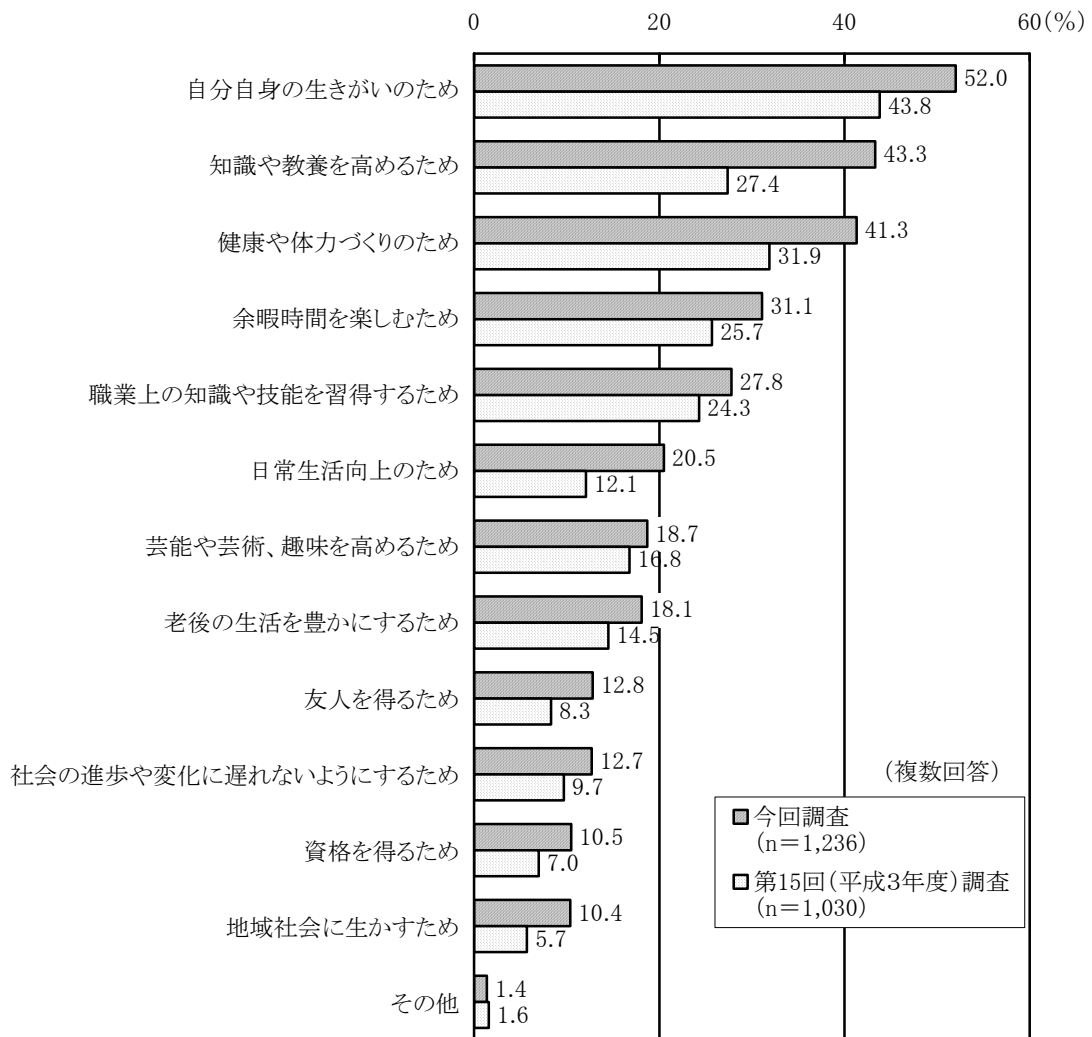
point

- 半数以上が、生涯学習の目的として「自分自身の生きがいのため」(52.0%)を挙げている。
- 平成3年度調査と比較すると、「知識や教養を高めるため」が15.9ポイント増加しているが、全体的な傾向にあまり変化はみられない。

【問9で何らかの生涯学習をしたことがある人に】

付問1 あなたがそれを、学んだり習ったりしたのはどのような目的からですか。
次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。

(注)第15回調査は「3つ以内」



属性別特徴

- ・性別でみると、「自分自身の生きがいのため」「知識や教養を高めるため」では男性よりも女性での割合が高くなっている。
- ・年齢別でみると、「自分自身の生きがいのため」は60歳以上で割合が高くなっている。また、「知識や教養を高めるため」は20歳代では5割を超えている(53.6%)。
- ・ブロック別でみると、「自分自身の生きがいのため」は北部B(北野)(58.1%)や北部A(58.0%)で、「知識や教養を高めるため」は西部A(城島)(54.9%)や北部A(49.1%)で、「健康や体力づくりのため」は西部A(城島)(52.9%)で高くなっている。

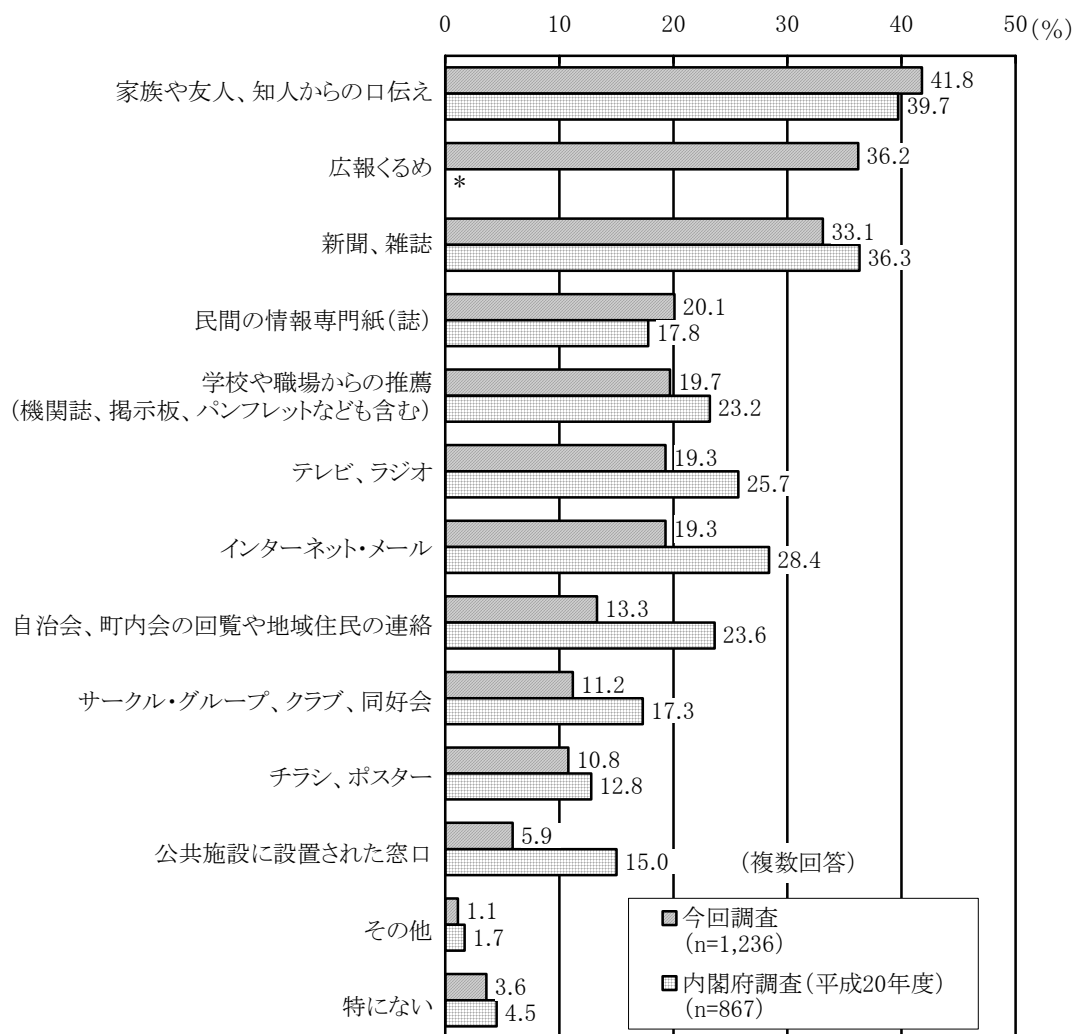
(4)「生涯学習」に関する情報源

point

- 最も多く挙げた情報源は、「家族や友人、知人からの口伝え」で41.8%。
- 男性の1位は「新聞、雑誌」で36.5%、女性の1位は「家族や友人、知人からの口伝え」で47.3%。

【問9で何らかの生涯学習をしたことがある人に】

付問2 あなたは生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別
特徴

- ・性別でみると、男性の1位は「新聞、雑誌」の 36.5%、女性の1位は「家族や友人、知人からの口伝え」で47.3%となっている。
- ・年齢別でみると、「家族や友人、知人からの口伝え」「広報くろめ」は60歳代以上で、「新聞、雑誌」は50歳代で割合が高くなっている。
- ・ブロック別でみると、「自治会、町内会の回覧や地域住民の連絡」は、西部B(三潁)(23.4%)、北部B(北野)(19.4%)で多く挙げられている。

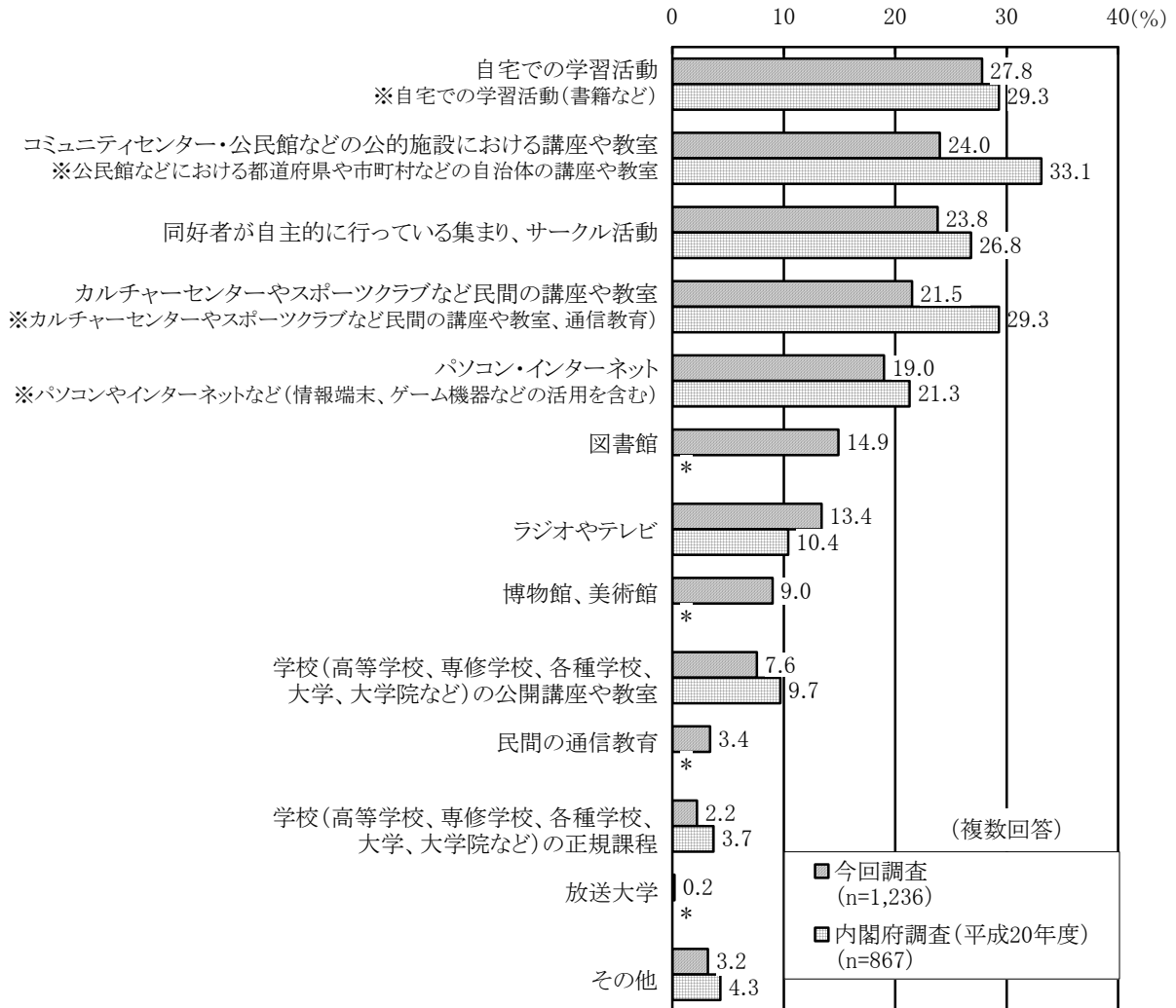
(5) 生涯学習活動のかたち

point

- 生涯学習活動のかたちで最も多いのは「自宅での学習活動」(27.8%)。
- 女性では「コミュニティセンター・公民館などの公的施設における講座や教室」が最も多く 31.0%となっている。

【問9で何らかの生涯学習をしたことがある人に】

付問3 あなたは、どのようなかたちで生涯学習活動を行っていますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



(注)「※」:内閣府調査(平成20年度)での選択肢

「*」:内閣府調査(平成20年度)には対応する選択肢がないもの

なお内閣府調査(平成20年度)では、「図書館、博物館、美術館」で14.5%となっている

属性別特徴

- ・性別でみると、「自宅での学習活動」や「パソコン・インターネット」は女性よりも男性で多いが、「コミュニティセンター・公民館などの公的施設における講座や教室」「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室」などは男性よりも女性の方が多い。
- ・年齢別でみると、「自宅での学習活動」は20歳代で最も多い。また、「コミュニティセンター・公民館などの公的施設における講座や教室」「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」は60歳代以上で多くなっている。
- ・ブロック別でみると、「自宅での学習活動」は北部B(北野)(37.1%)や西部B(三潁)(35.9%)で、「コミュニティセンター・公民館などの公的施設における講座や教室」は西部B(三潁)(31.3%)や南東部(30.6%)が多い。また、「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」は東部B(田主丸)(32.6%)や南西部(28.4%)で、「図書館」は中央東部(20.5%)、西部B(三潁)(20.3)、西部A(城島)(19.6%)が多い。

3-2 今後の生涯学習の意向

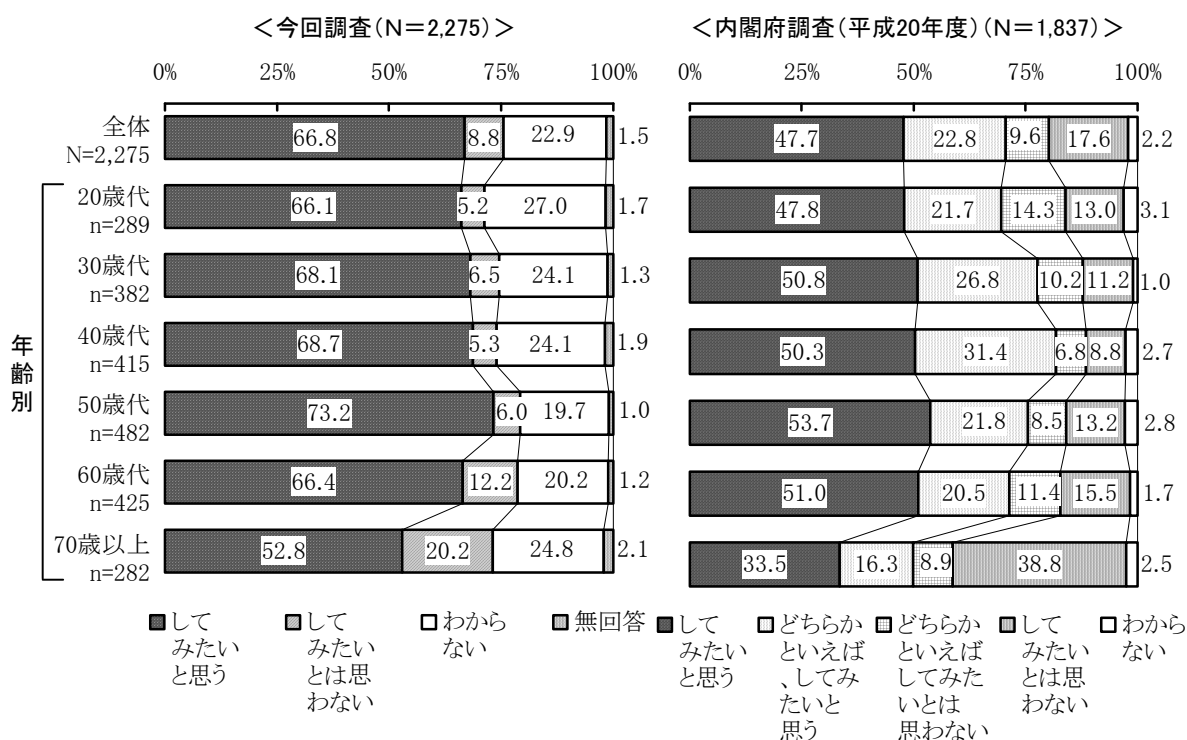
◆生涯学習をしてみたい市民は約3分の2。行政は「健康」「高齢者」の学習サポートが望まれている。

(1) 生涯学習の希望

point

- 約3分の2の市民が、今後、生涯学習を「してみたいと思う」と回答。
- 50歳代・女性では約8割（79.9%）が「してみたいと思う」と回答。

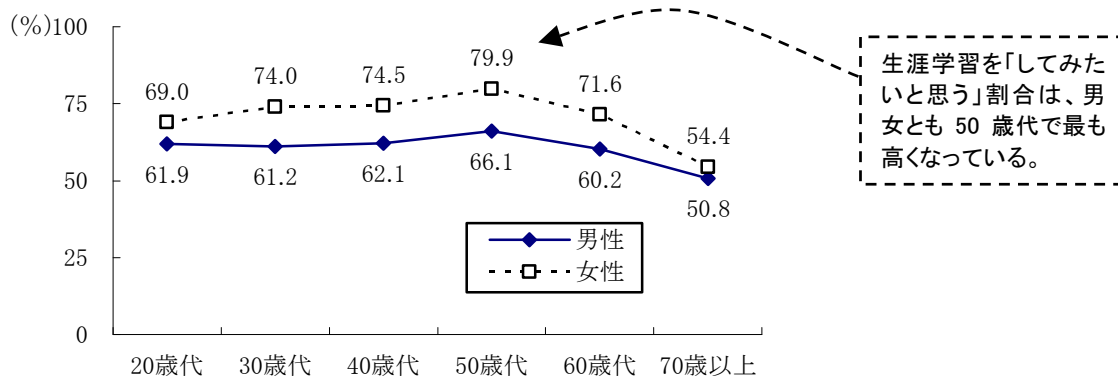
問10 あなたは、今後、「生涯学習」をしてみたいと思いますか。



属性別特徴

- ・性別でみると、「してみたいと思う」割合は、男性(61.1%)よりも女性(71.6%)の方が10ポイント程度高い。
- ・年齢別でみると、「してみたいと思う」割合は、50歳代で最も高く73.2%。逆に最も低いのは70歳以上の52.8%。
- ・ブロック別でみると、「してみたいと思う」割合は、中央部(71.7%)、南東部(70.6%)、南西部(70.0%)でやや高い。

■図3-3 性×年齢別にみた生涯学習を「してみたいと思う」割合



生涯学習を「してみたいと思う」割合は、男女とも50歳代で最も高くなっている。

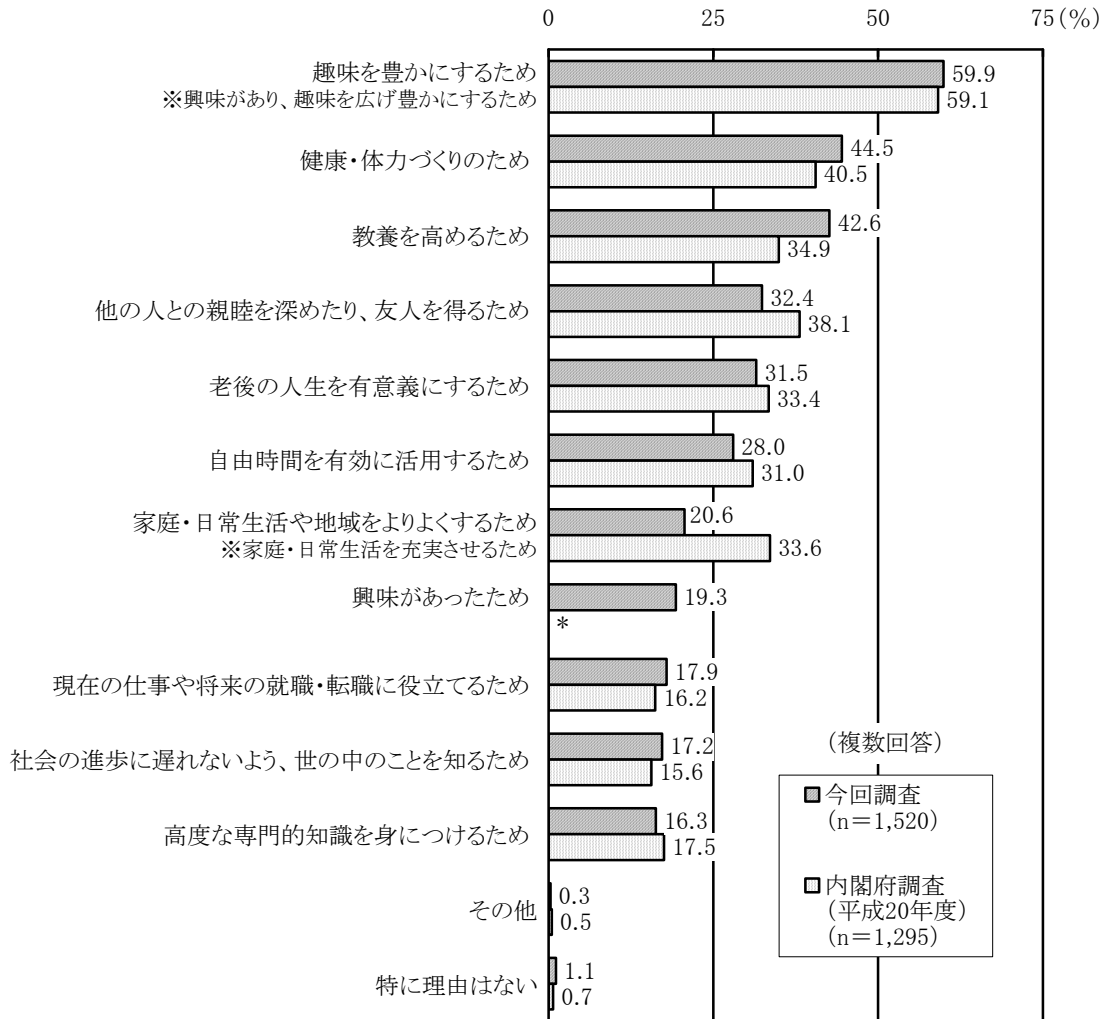
(2) 生涯学習をしてみたい理由

point

●生涯学習をしてみたい理由で最も多いのは「趣味を豊かにするため」で59.9%。次いで「健康・体力づくりのため」(44.5%)、「教養を高めるため」(42.6%)が続く。

【問 10 で「してみたいと思う」に回答した人に】

付問 1 生涯学習をしてみたいと思う理由はどのようなことでしょうか。
次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



(注)「※」:内閣府調査(平成20年度)での選択肢

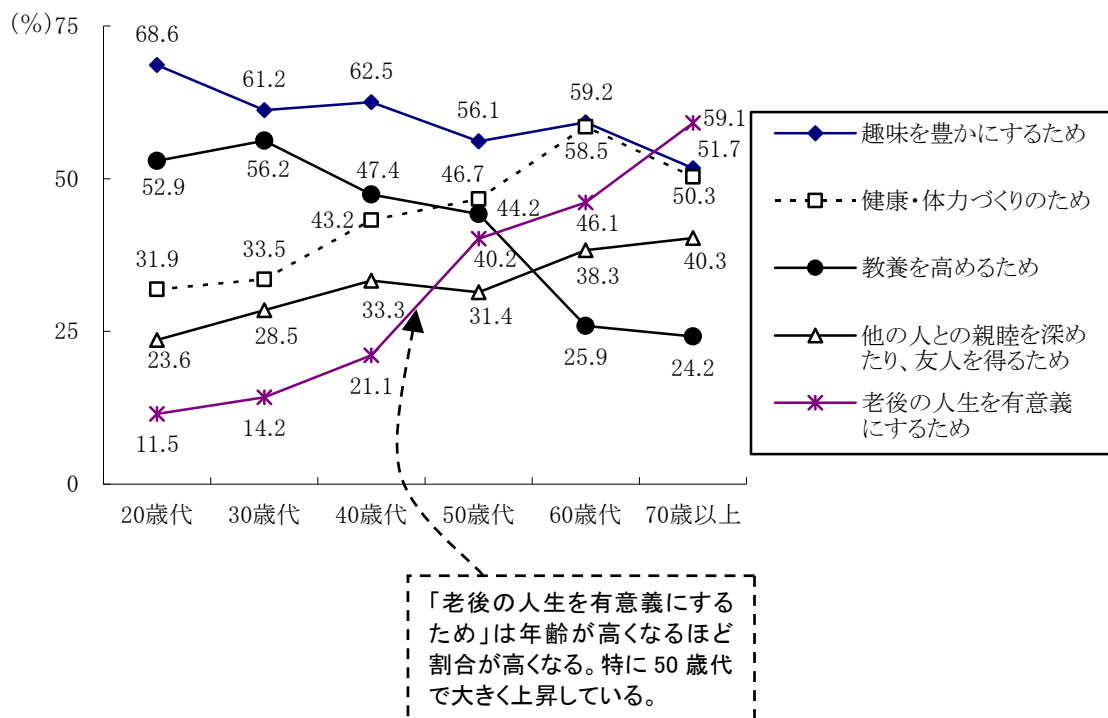
「*」:内閣府調査(平成20年度)には対応する選択肢がないもの

なお内閣府調査(平成20年度)では、別選択肢「地域や社会をよりよくするため」が16.4%となっている

属性別特徴

- ・性別で見ると、「健康・体力づくりのため」は、女性(42.6%)より男性(47.1%)の方が割合が高い。一方、「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」や「老後の人生を有意義にするため」は、男性よりも女性の方が割合が高くなっている。
- ・年齢別で見ると、「趣味を豊かにするため」「教養を高めるため」は20~40歳代で割合が高いが、「健康・体力づくりのため」「他の人との親睦を深めたり、友人を得るため」「老後の人生を有意義にするため」は60歳代以上で高くなっている。
- ・ブロック別で見ると、「趣味を豊かにするため」は南西部(63.3%)で、「健康・体力づくりのため」は東部A(50.0%)、西部A(城島)(50.0%)、南東部(49.4%)で、「教養を高めるため」は中央部(48.8%)や中央南部(46.6%)で高くなっている。

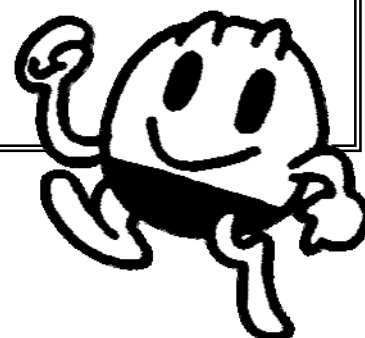
■図3-4 年齢別にみた生涯学習をしてみたいと思う理由(上位5項目)



生涯学習の強い味方！ エルエル LLアドバイザーバンク

「LL アドバイザーバンク」とは、皆さんの生涯学習のお手伝いをするアドバイザーを登録しているところです。教養・手芸・スポーツ・趣味・環境など様々な分野にわたる200人以上の充実した講師陣があなたのご利用をお待ちしています。

- 1回の学習時間・・・2時間程度
- 1回の学習費用・・・交通費などとして5,000円
(※会場使用料・材料費などは学習者負担となります)
- 申込み先 LL ネットコアくるめ
【電話】0942-38-2258
【FAX】0942-30-7912



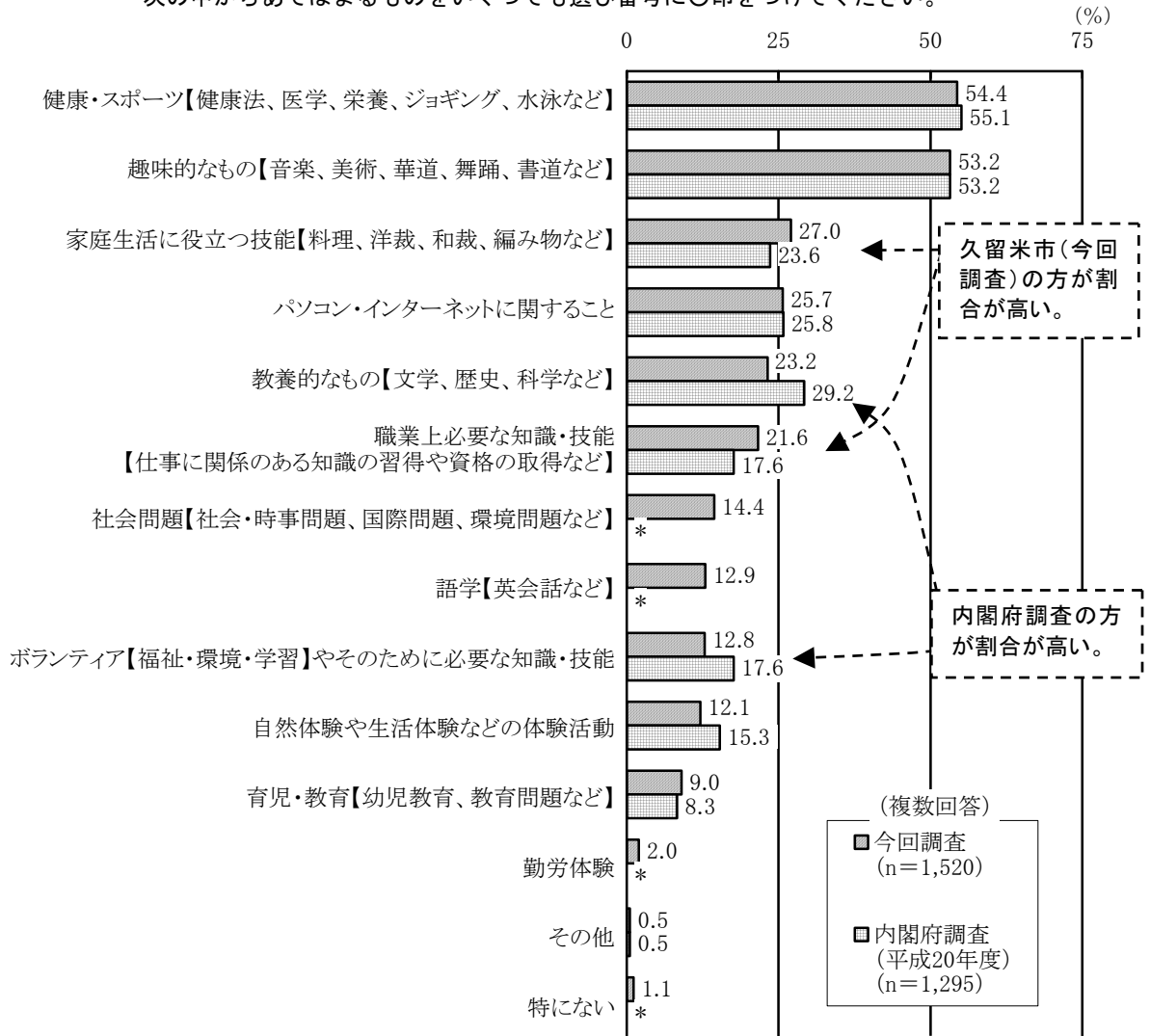
(3) してみたい学習や活動

point

● してみたい学習や活動で最も多いのは、「健康・スポーツ」で 54.4%。次いで「趣味的なもの」が 53.2%で、5 割を超えている。

【問 10 で「してみたいと思う」に回答した人に】

付問 2 では、あなたは、どのような学習や活動をしてみたいと思いますか。
次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別特徴

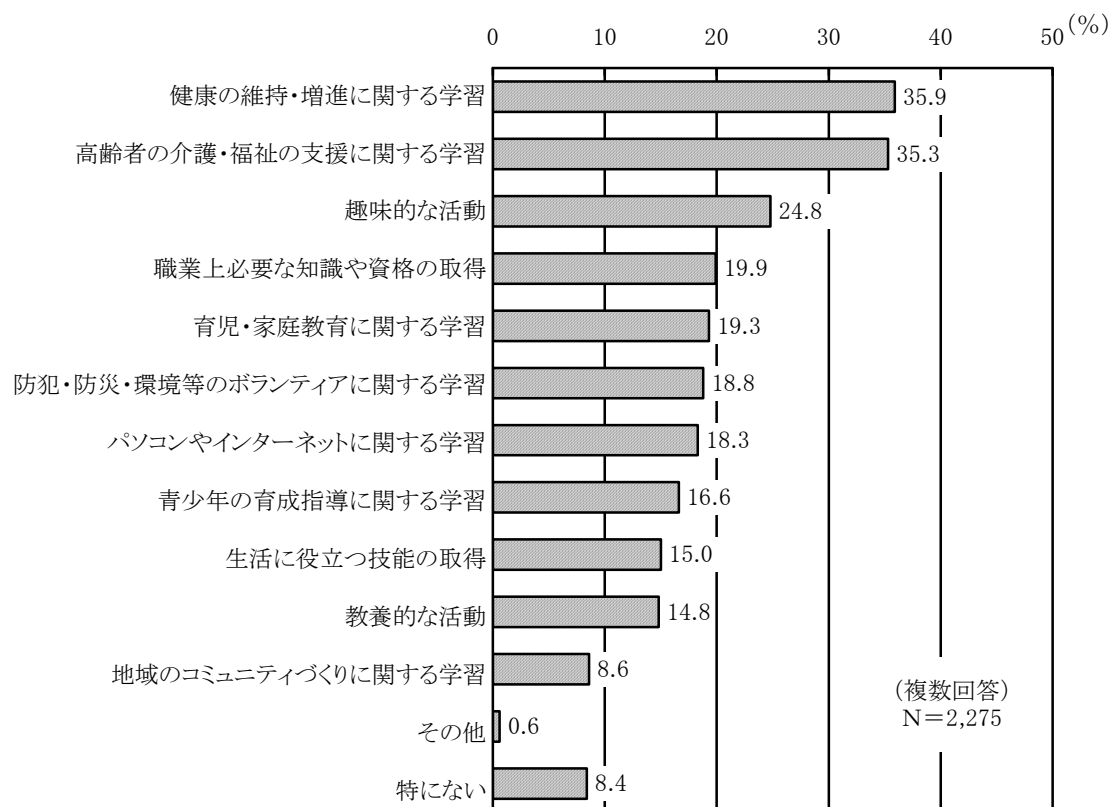
- ・性別でみると、「趣味的なもの」「家庭生活に役立つ技能」などは男性よりも女性の方が割合が高く、逆に「パソコン・インターネットに関すること」「職業上必要な知識・技能」は女性よりも男性の方が割合が高くなっている。
- ・年齢別でみると、「趣味的なもの」は 20 歳代で最も高く、「健康・スポーツ」は 60 歳代で最も割合が高い。また、「職業上必要な知識・技能」は 20 歳代で特に高く 44.0%となっている。
- ・ブロック別にみると、「健康・スポーツ」は中央東部(61.5%)で、「趣味的なもの」は北部A(57.9%)や西部A(城島)(57.4%)でやや高くなっている。

(4) 行政が力をいれていくべきこと

point

●行政は「健康の維持・増進」「高齢者の介護・福祉の支援」に関する学習に力を入れるべきという声が多くなっている。

問 11 行政が実施する市民を対象とした学習・教育の項目として今後特に力をいれていくべきだと思うものはどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。



属性別
特徴

- ・性別でみると、「健康の維持・増進」「高齢者の介護・福祉の支援」「育児・家庭教育」に関する学習は、男性よりも女性の方が割合が高くなっている。
- ・年齢別でみると、「健康の維持・増進」「高齢者の介護・福祉の支援」に関する学習は、50歳代以上で割合が高い。一方、「職業上必要な知識や資格の取得」「育児・家庭教育に関する学習」は、20・30歳代で割合が高い。
- ・ブロック別でみると、「高齢者の介護・福祉に関する学習」は東部A(42.1%)で高く、「防犯・防災・環境等のボランティアに関する学習」は西部B(三潁)(25.2%)、東部A(22.6%)で高くなっている。また、「地域のコミュニティづくりに関する学習」は北部A(11.4%)、西部B(三潁)(10.1%)でやや割合が高い。

3-3 ボランティア活動について

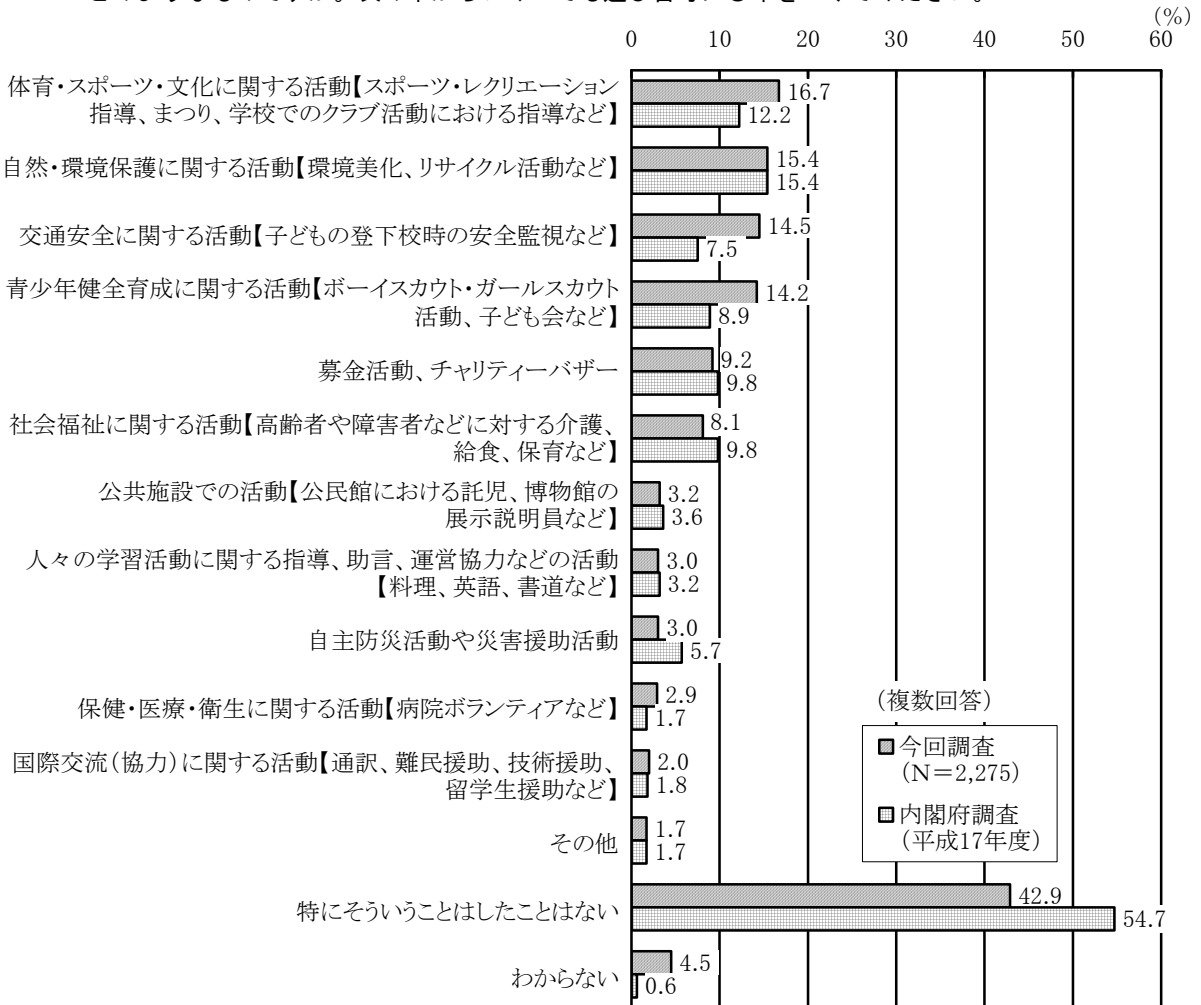
◆ボランティア参加意向は 54.0%。「自然・環境保護」や「社会福祉」に関する活動への参加意向が高い。

(1) ボランティア活動の参加経験

point

●「体育・スポーツ・文化」、「自然・環境保護」、「交通安全」、「青少年健全育成」に関するボランティア活動には、それぞれ6～7人に1人が「参加したことがある」。

問 12 自分の本来の仕事や学業とは別に、地域や社会のために時間や労力、知識・技能などを提供する「ボランティア活動」も、広い意味で「生涯学習」の1つとらえられています。あなたは、これまでに、このようなボランティア活動に参加したことがありますか。あるとすれば、どのようなものですか。次の中からいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別特徴

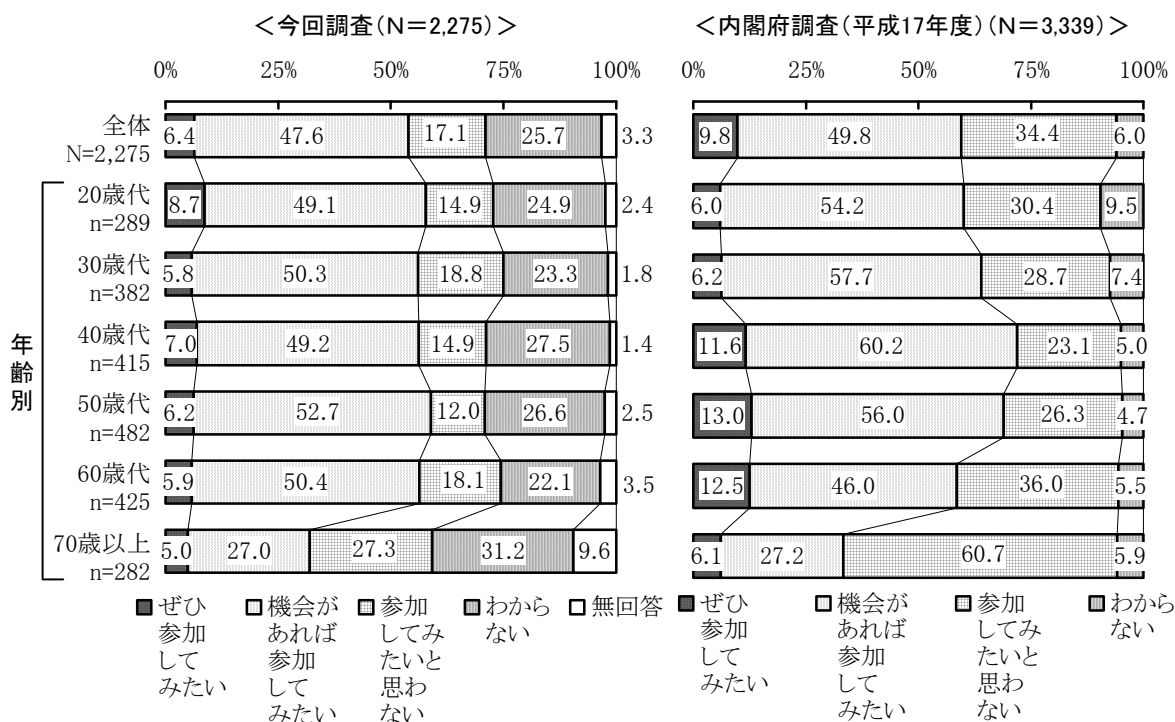
- ・性別でみると、「交通安全に関する活動」「社会福祉に関する活動」は男性よりも女性の方が多く経験している。また、「特にそういうことをしたことはない」という割合は、女性(40.6%)より男性(45.7%)の方が多い。
- ・年齢別でみると、「体育・スポーツ・文化に関する活動」の経験は 20・40 歳代(21.1%、24.1%)で高く、「交通安全に関する活動」「青少年健全育成に関する活動」は 40 歳代で多くなっている。一方、「特にそういうことをしたことはない」は 70 歳以上(51.1%)や 30 歳代(49.2%)で高く、5割程度となっている。
- ・ブロック別でみると、「体育・スポーツ・文化に関する活動」は西部A(城島)(24.1%)、北部A(20.9%)、東部A(20.1%)で、「自然・環境保護に関する活動」は東部A(23.8%)や南西部(19.0%)で、「交通安全に関する活動」は南西部(21.4%)や西部A(城島)(19.0%)で高くなっている。また、「特にそういうことはしたことはない」は中央南部で最も高く 47.6%となっており、逆に、南西部(36.7%)や東部B(田主丸)(36.9%)で低くなっている。

(2) ボランティア活動の参加希望

point

●今後のボランティアへの参加意向（「ぜひ参加してみたい」＋「機会があれば参加してみたい」）は54.0%。

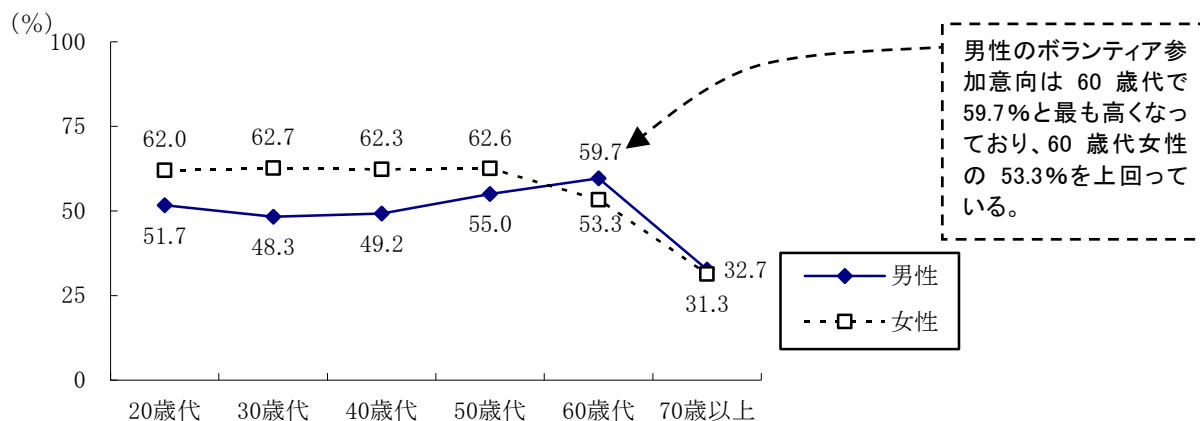
問 13 あなたは、今後、このようなボランティア活動に参加してみたいと思いますか。あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。



属性別特徴

- ・性別でみると、『参加してみたい』（「ぜひ参加してみたい」＋「機会があれば参加してみたい」）割合は男性（50.7%）よりも女性（56.7%）の方が高い。
- ・年齢別でみると、70歳以上を除き、全ての年代で『参加してみたい』が5割以上となっている。
- ・ブロック別でみると、『参加してみたい』は北部A（62.2%）で高く、西部A（城島）（44.8%）、西部B（三猪）（48.8%）で低くなっている。

■図3-5 性×年齢別にみたボランティア活動に『参加してみたい』割合



男性のボランティア参加意向は60歳代で59.7%と最も高くなっており、60歳代女性の53.3%を上回っている。

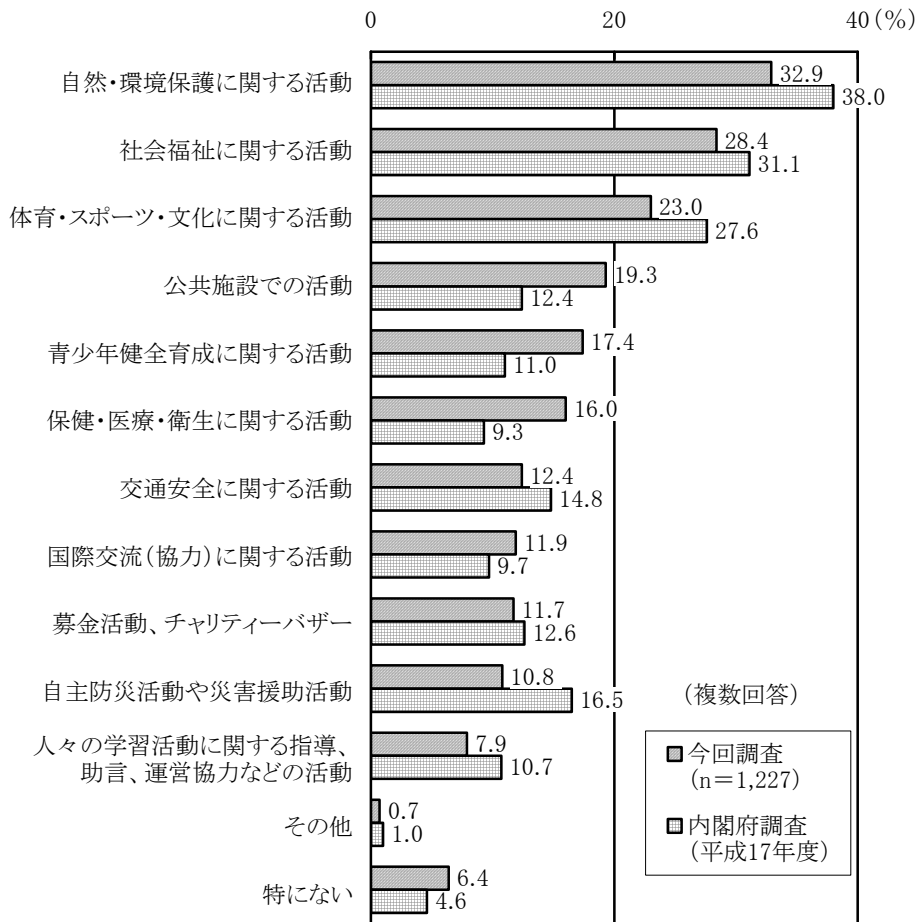
(3) 参加してみたいボランティア活動

point

- 参加してみたいボランティア活動は、「自然・環境保護に関する活動」(32.9%)や「社会福祉に関する活動」(28.4%)が多くなっている。
- 「自然・環境保護に関する活動」が、南西部や東部B, 北部Aで特に多く挙がるなど、地域の状況によって、参加してみたい内容が異なっている。

【問 13 で「ぜひ参加してみたい」「機会があれば参加してみたい」に回答した人に】

付問 1 では、今後、どのようなボランティア活動に参加してみたいと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



属性別特徴

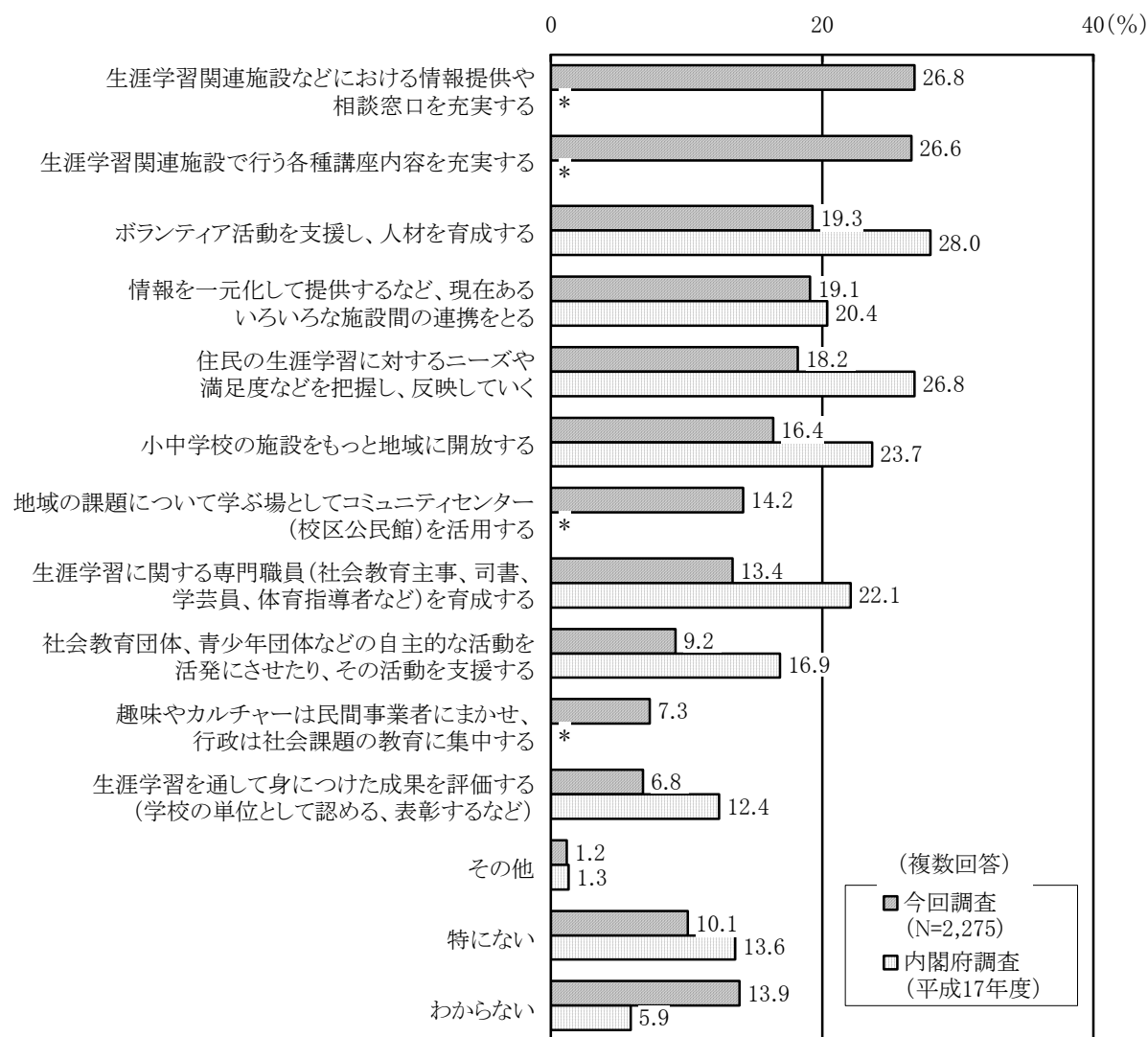
- ・性別でみると、「自然・環境保護」「体育・スポーツ・文化」「青少年健全育成」に関する活動は、女性よりも男性で参加意向が高い。一方、「社会福祉に関する活動」「公共施設での活動」は女性の方が参加意向が高い。
- ・年齢別でみると、「自然・環境保護」「社会福祉」に関する活動は 50・60 歳代で、「体育・スポーツ・文化に関する活動」は 20～40 歳代の若年層で多く挙がっている。また、「青少年健全育成に関する活動」は 40 歳代で、「保健・医療・衛生に関する活動」は 20・30 歳代で多い。
- ・ブロック別でみると、「自然・環境保護」は南西部(39.7%)、東部B(田主丸)(39.1%)、北部A(37.6%)で多く挙がっており、「社会福祉」は中央東部(34.9%)や中央部(31.5%)でやや多くなっている。また、「体育・スポーツ・文化」は西部A(城島)(34.6%)や中央部(28.7%)で、「青少年健全育成」は西部A(城島)(26.9%)や東部A(25.3%)で多く、「交通安全」は東部B(田主丸)(20.7%)で多い。

(4) 行政が力を入れるべきこと

point

●生涯学習活動を盛んにするために、行政には「情報提供や相談窓口の充実」「講座内容の充実」を求める声が多くあがっている。

問 14 今後、人々の生涯学習活動をもっと盛んにしていくために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号に○印をつけてください。



(注)「*」:内閣府調査(平成17年度)には対応する選択肢がないもの
なお内閣府調査(平成17年度)では、「生涯学習関連施設などにおけるサービスを充実する(講座の充実、開館時間の拡大、情報提供や相談窓口の充実など)」が37.4%で最も多い。

属性別特徴

- ・性別で見ると、「生涯学習関連施設で行う各種講座内容を充実する」は男性(22.2%)より女性(30.4%)の方が高いが、その他の項目にはあまり違いはみられない。
- ・年齢別で見ると、「生涯学習関連施設で行う各種講座内容を充実する」は40歳代で34.7%と高くなっている。また、「ボランティア活動を支援し、人材を育成する」は50歳代で24.3%と高い。
- ・ブロック別で見ると、「社会教育団体、青少年団体などの自主的な活動を活発にさせたり、その活動を支援する」は、西部B(三瀬)(16.0%)や西部A(13.8%)でやや高い。



— 生涯学習について —

■「生涯学習」の認知度が高く、多くの人が生涯学習をしている

まず、「生涯学習」の言葉の認知度からみてみよう。「言葉も意味も知っている」が 49.3%、「言葉は知っているが、意味はよく知らない」が 39.3%と、合計 88.6%の市民が言葉を知っている。「知らない」は 10.8%にとどまる。ブロック別にみても「知らない」割合に差異はみられない。

「言葉も意味も知っている」と答えた人に注目すると、平成 3 年に実施された第 15 回市民意識調査では 54.7%で、今回調査では全体では約 5 ポイントの減少をみている。これを年齢別にみると、興味深い結果がうかがわれる。すなわち、20 歳代では 47.3%から 32.9%と 14 ポイントの減少、30 歳代にいたっては 56.7%から 31.7%と 25 ポイントもの減少である。平成 3 年調査より増加したのは 60 歳代、70 歳以上の年齢層だけである。

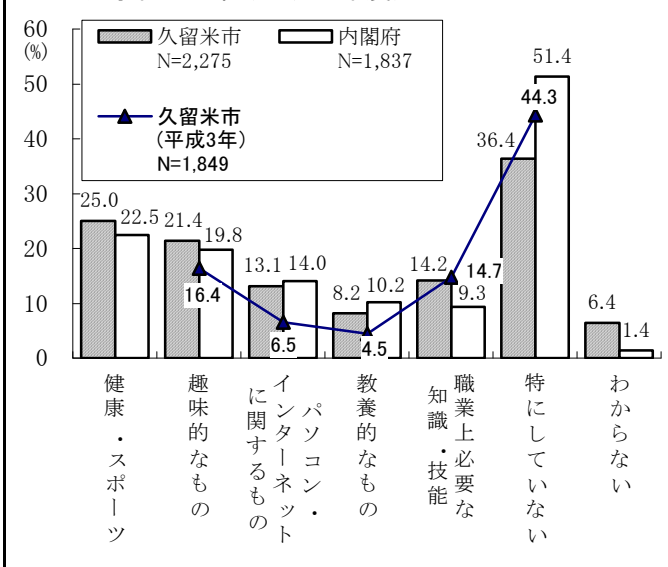
とはいえ、内閣府が実施した「生涯学習に関する世論調査」と比較すると、調査方法が異なる（内閣府調査は個別面接聴取で実施）点を考慮に入れる必要があるが、久留米市民の認知度は高いといえる。選択肢が異なるので「聞いたことがない」でみると、平成 20 年調査では 19.5%、17 年度調査では 19.3%と、久留米市民の 2 倍程度が「聞いたことがない」と答えている。参考までに、平成 4 年の総理府調査の結果を紹介すると、「聞いたことがない」は 35.5%にも達しており、久留米市民の平成 3 年の認知度があまりにも高かったと判断した方がよい。

	(聞いたことが)ある	(聞いたことが)ない
内閣府 (平成20年度)	80.5%	19.5%
内閣府 (平成17年度)	80.7%	19.3%
総理府 (平成4年度)	64.5%	35.5%

次に、生涯学習の現状をみてみよう。平成 3 年調査と比較して大きな差異は「特にそ

ういうことをしていない」が 44.3%から 36.4%に、8 ポイントの減少をみたことである。言葉の認知度は減少したものの、活動の現状はかえって活発になったことがうかがわれる。なお、内閣府の調査結果をみると、「職業上必要な知識・技能」(9.3%)は久留米市民の方が約 5 ポイント高い。「ボランティア活動やそのために必要な知識・技能」は、国が 6.9%、久留米市民は 6.7%と、ほぼ同率である。また、「していない」は 51.4%であり、久留米市民の方が 15 ポイントも低い。久留米市の生涯学習活動は平成 3 年以降も活発化しており、全国調査と比べても取り組みが活発だといえる。

◆生涯学習の内容(平成20年度)



■生涯学習の基本ニーズは「健康・スポーツ」と「趣味的なもの」

今後の意向をみてみよう。「してみたいと思う」は 66.8%、50 歳代の 73.2%を最高に、20 歳代 (66.1%)、30 歳代 (68.1%) と若い世代でも高くなっている。70

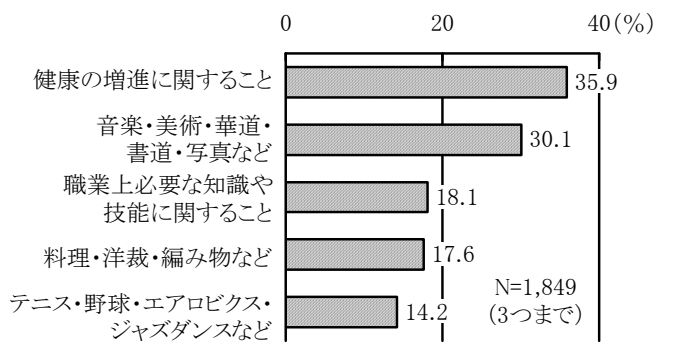
歳以上は 52.8%と低い。内閣府調査では「してみたいと思う」(47.7%)と「どちらかといえばしてみたいと思う」(22.8%)の計 70.5%が生涯学習の意思を示している。

してみたい活動をみると、「健康・スポーツ」(54.4%)、「趣味的なもの」(53.2%)の2項目が高率で、内閣府調査もほぼ同率である。生涯学習活動の基本的なニーズは、この2項目という事実が現状と意向の両面で確認される結果である。なお、「健康・ス

ポーツ」は 60 歳代、「趣味的なもの」は 20 歳代で高い。また、平成 3 年調査結果を見ても、上位 2 項目の選択肢表現は異なるが市民の基本ニーズに大きな差は見られない。

その他の項目では、「家庭生活に役立つ技能」「職業上必要な知識・技能」は久留米市民の方が内閣府調査より高くなっているが、どちらも 20~30 歳代でニーズが高いのが特徴的である。

◆久留米市の生涯学習の希望(平成3年度)上位5位



■生涯学習へ自ら取り組む市民意識の醸成が課題

ボランティア活動の参加意向についてみてみよう。「ぜひ参加してみたい」は 6.4%、「機会があれば参加してみたい」が 47.6%と、合計 54.0%が参加の意向を持っている。内閣府調査では、「ぜひ参加してみたい」(9.8%)と「機会があれば参加してみたい」(49.8%)の合計は 59.6%であり、これと比べると久留米市民の方が 6 ポイント低い。

参加したい活動内容についてみると、「自然・環境保護に関する活動」(32.9%)、「社会福祉に関する活動」(28.4%)、「体育・スポーツ・文化に関する活動」(23.0%)の3項目が高いが、いずれも内閣府調査の比率より低い。興味深いことは、「公共施設での活動」(19.3%：国 12.4%)、「青少年健全育成に関する活動」(17.4%：国 11.0%)、「保健・医療・衛生に関する活動」(16.0%：国 9.3%)が内閣府調査を上回る意向を見ていることである。ただ、「自主防災活動や災害援助活動」の意向は、内閣府調査 16.5%に対し久留米市民 10.8%という結果で、今後の課題であろう。

行政が力を入れるべきことについてみてみよう。「生涯学習関連施設などにおける情報提供や相談窓口を充実する」(26.8%)、「生涯学習関連施設で行う各種講座内容を充実する」(26.6%)の2項目が高く、内閣府調査でも「生涯学習関連施設などにおけるサービスを充実する」が 37.4%で最も多い。

ただ 3 位以下の項目について内閣府調査と比べると、「情報を一元化して提供するなど、現在あるいろいろな施設間の連携をとる」(19.1%：国 20.4%)以外の項目で、いずれも久留米市民の方が 6~9 ポイント低い。そのなかで注目したいのは、「ボランティア活動を支援し、人材を育成する」(19.3%：国 28.0%)、「住民の生涯学習に対するニーズや満足度などを把握し、反映していく」(18.2%：国 26.8%)、「社会教育団体、青少年団体などの自主的な活動を活発にさせたり、その活動を支援する」(9.2%：国 16.9%)の3項目である。いずれも、自主的自発的なボランティア活動や市民参画の基盤づくりに関わる項目だけに、内閣府調査の比率との「落差」については十分な検討が必要である。情報提供や講座の充実も重要であることはもちろんではあるが、「与えられるものから自らつくりだすものへ」生涯学習に関わる市民意識も、現代的な学習課題が問われるところである。

ひとこと

平成18年に改正された教育基本法は、「新しい時代の教育の基本理念」として、「知・徳・体の調和がとれ、生涯にわたって自己実現を目指す自立した人間」「公共の精神を尊び、国家・社会の形成に主体的に参画する国民」「我が国の伝統と文化を基礎として国際社会を生きる日本人の育成をうたった。そして、その第3条に「生涯学習の理念」が新設され、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」とした。

このことの意義を考えてみよう。生涯学習に関する法律は、平成4年に施行された生涯学習振興法であるが、この法律は「生涯学習」の定義を行わなかった。このことから、これまで多様な「政策的な理解」が行われてきたが、改正教育基本法が「生涯学習の理念」をうたうことにより法的な根拠を明確に示したことが重要である。また、生涯学習を教育に関わる最高法規が位置づけたことにより、生涯学習の振興に関わる行政について「教育政策」としての性格が明確にされたことも、あわせて指摘しておかなければならない。

平成 20 年2月、中央教育審議会は、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～(答申)」を発表した。答申は、「第1部 今後の生涯学習の振興方策について」「第2部 施策を推進するに当たっての行政の在り方」から構成されている。

「第1部」では、まず「生涯学習の振興の要請」として、「国民が生涯にわたって行う学習活動の支援の要請」「総合的な『知』が求められる時代・社会の変化による要請」「自立した個人の育成や自立したコミュニティ(地域社会)の形成の要請」「持続可能な社会の構築の要請」の4つを示し、その必要性和重要性はますます高まっていると指摘した。さらに、「目指すべき施策の方向性」については「国民一人一人の生涯を通じた学習の支援・国民の『学ぶ意欲』を支える」「社会全体の教育力の向上・学校・家庭・地域が連携するための仕組み

づくり」を提起している。

具体的な取り組みについては、「第2部」で展開されているが、従来からの「市町村の任務の在り方」「地域の拠点施設の在り方」「人材の在り方」の論点に付加して、「NPO、民間事業者等と行政の連携の在り方」「地方公共団体における体制について」の2つについて明らかにしていることが特徴である。

久留米市は、昭和 50 年代から生涯学習の振興に努め、「スタディポリス」づくりをめざしてきた。さらに、平成6年には、その総合的な推進をはかるため「久留米市生涯学習基本構想」を策定、「伸びやかな個性をはぐむ文化都市」の実現を進めてきた。国がうたう、新しい生涯学習の理念と政策を踏まえ、21 世紀にふさわしい「生涯学習社会・久留米」の実現に向けた施策の展開が期待されるところである。まさに「水と緑の人間都市」に関わる「人間都市」の内実を豊かにする生涯学習政策の意義が問われている。

「人間都市」づくりにあたって重要な施策が、「生涯学習ボランティアのまちづくり」であることはいうまでもない。平成4年、国の生涯学習審議会は「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策(答申)」を発表、そのなかで生涯学習とボランティアの関係について、「第1は、ボランティア活動そのものが自己開発、自己実現につながる生涯学習となるという視点、第2は、ボランティア活動を行うために必要な知識・技術を習得するための学習として生涯学習があり、学習の成果を生かし、深める実践としてボランティア活動があるという視点、第3は、人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって、生涯学習の振興が一層図られるという視点である。」とうたった。

平成3年調査は、このような「ボランティア活動そのものが生涯学習」という理念を前にして生涯学習行政に求められた課題を明らかにするものであったが、同調査では「何か学んだり習ったことがある」と答えた市民(全体の 55.7%)を対象にボランティア活動の意向を尋ねている。

その結果をみると、学んだことを地域のために

「ぜひ生かしたい」が 10.7%、「機会があれば生かしたい」が 55.0%、合計 65.7%がボランティア活動の意向をもっており、全員に尋ねた今回の調査とは質問形式が異なるため直接比較はできないものの、この間ボランティア活動の意向をもつ市民は一定程度存在してきたと判断してもよいだろう。

「協働のまちづくり」を市政の重要課題とする久留米市において、ボランティアの育成は不可欠の施策であり、成熟した市民意識を「市民と行政の協働」という次のステップに進めるためには、ボランティアとの連携、ネットワークづくりが必要になる。

今回実施された調査結果と平成3年調査との活動実態や課題の共通性を踏まえるならば、市町村合併という新たな要因はあっても、平成3年調査により市民の学習ニーズを把握して策定され

た「久留米市生涯学習基本構想(平成6年)」を踏まえて今後の基本的方向を策定することが適切である。その上に立って、少子・高齢化、情報化、国際化など、社会の変化が求める「現代的学習課題」に対応した学習機会の提供はもちろん、生涯学習の成果を地域社会に生かす機会の創出、ボランティア等生涯学習が生む人材を十分に活用できるシステムの構築への方向性を明らかにすることが必要である。

久留米市の生涯学習の推進にあたっては、「生涯学習ネットワークの構築」「市民の学習機会の充実」「学習成果を生かすシステムづくり」の3つの方向性を有機的、効果的に結合させる「持続可能な学習サイクル」を保障する仕組みづくりが求められている。

「えーるネット」は、久留米市がインターネット上で生涯学習のさまざまな情報を紹介するサイトです



久留米市情報提供システム「えーるネット」は、市民の皆様のさまざまな活動を支援するために久留米市が開設したサイトです。

えーるピア久留米の生涯学習センター登録団体やLLアドバイザー、男女平等推進センターの登録団体及び人材、校区コミュニティセンター（校区公民館）の活動やイベント・講座、人材情報など、さまざまな情報を紹介しています。

くわしくは、<http://kurume.genki365.net/> まで。